

2010年3月期 第3四半期決算説明会

あした
先進技術で豊かな未来を——
**ELECTRIC
ELECTRONICS**
TECHNOLOGY



 株式会社 立花エレテック

2010年2月17日

TACHIBANA ELETECH

会社概要

社名	株式会社 立花エレクトック 証券コード 8159 (東証・大証第1部)		
創業	1921(大正10)年9月1日		
代表者	代表取締役社長 渡邊武雄	発行済株式数	21,381千株 (自己株式を含む)
本社所在地	大阪市西区西本町 1-13-25	株主数	3,127名
資本金	56億92百万円	従業員数	連結 951人 単独 803人
連結売上高	1,165億39百万円(09年3月期)		
事業内容	電機・電子の商品、システムを販売する技術商社		
事業所	支社:東京、名古屋 支店:11 営業所:5 物流センター:1		
グループ企業	連結子会社:国内 9社、海外6社(シンガポール、香港、台湾、上海、韓国、タイ) 関連会社:1社		

[2009年9月末現在]

事業ドメイン/事業内容

トータルソリューションを強化する
立花エレテックのダイヤモンドドメイン



◆FAシステム事業

モーターや遮断機などの電気機器。インバータやPLC、サーボなどのFA機器。放電加工機やレーザー加工機などの産業機械。各産業の生産ラインの自動化・合理化システムの構築。

◆半導体デバイス事業

規格品からユーザー仕様までニーズに合わせた半導体製品や電子デバイス。さらにマイコン・ASICやカスタムLSIの設計開発。またEMSビジネスを展開。

◆情報通信事業

コンピュータ、通信、映像の3分野を主に情報ネットワークを形成するシステムや通信機器・映像機器・各種パソコン。またシステムインテグレーターとして最適なシステムを構築。

◆施設事業

工場やオフィスビル・店舗における照明・空調・エレベーターなどの昇降機、防災設備機器。また省エネに優れたオール電化製品を販売。

◆ソリューション事業

技術商社として培ってきた技術力を結集して工場などにおける省エネ・環境・安全・効率性といった要素を含めた複合的なシステム案件や環境エネルギー分野の需要開拓。

◆海外事業

アジアを中心にAV・IT関連の電子部品関連材料や各種金属加工品、防犯・防災機器の調達。

<合理化経営で黒字確保>

景況：本期をボトムとし年度後半から若干の回復
見通しとしていた

① 損益分岐点を割らない経営

② 経費は引き続き大幅にカット

- 交際費、交通費、広告宣伝費をはじめ徹底的に
経費削減を実施
- 販売管理費は年間ベースで 10% 削減見込み

・80期 120億円(実績)

・81期 108億円(見込み)

③ 人員 新卒は確保・自然減対応

2010年3月期第3四半期決算総括①

【業績の概況】

◆減収減益

設備投資の縮小から、主力のFAシステムは、FA製品全般並びに産業機械が受注減少。本格的な回復はまだ先であるが、底打ちの兆しがみえてきた。半導体デバイスは、カーエレクトロニクスや家電製品などのマイコンやパワー素子が減少となったが、全体としては、回復基調を強めている。

◆合理化経営で黒字確保

【3Q累計連結業績ハイライト】

(単位:百万円)

主要科目	2009年3月期 1Q-3Q累計	2010年3月期 1Q-3Q累計	前年同期比
売上高	92,007	67,451	73.3%
売上総利益	11,473	8,286	72.2%
販管費	9,134	7,840	85.8%
営業利益	2,339	446	19.1%
経常利益	2,402	594	24.8%
当期(3Q累計)純利益	898	381	42.4%

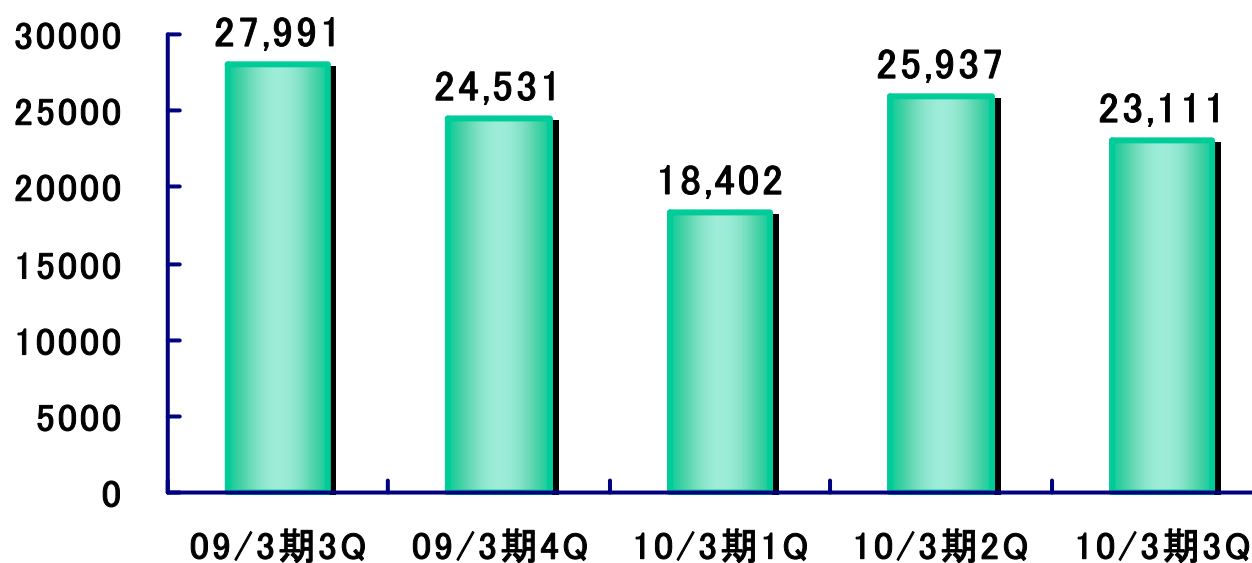
2010年3月期第3四半期決算総括②

【3Q連結業績ハイライト】

(単位:百万円)

主要科目	2009年3月期 3Q	2010年3月期			前年 同期比	前四 半期比
		1Q	2Q	3Q		
売上高	27,991	18,402	25,937	23,111	82.6%	89.1%
経常利益	378	▲356	701	247	65.3%	35.2%
四半期純利益	143	▲205	415	170	118.9%	41.0%

四半期売上高推移



2010年3月期通期業績予想

【業績計画(連結)】

(単位:百万円)

主要科目	2009年3月期	2010年3月期予想	前年比(%)
売上高	116,539	96,000	82.4
営業利益	2,601	1,100	42.3
経常利益	2,654	1,200	45.2
当期純利益	1,396	650	46.5
1株当たり年間配当金	20(円)	18(円)	—
1株当たり当期純利益	66.11(円)	31.17(円)	—

売上高の内

海外売上高	11,831 (10.2%)	11,200 (11.7%)	94.7
-------	----------------	----------------	------

* ()は全体に占める割合

(1) 戦略事業の強化

■ ソリューションビジネスの強化

「省エネ・環境・安全・効率性」を複合的に捉え、生産現場に求められるソリューションを総合的に提供

■ 環境エネルギービジネスの推進

次世代のクリーンエネルギーと期待される「太陽光発電」
「風力発電」「燃料電池」の需要の開拓と導入支援

■ 質の高い工事・サービスの提供

子会社(工事会社)再編により対象分野の大幅拡大を図る

■ エンジニアリングの深化

(2) 営業能力の強化

■ 『CAPUP1500プロジェクト』を強力に推進

「マネジメント能力の向上」を通じて「業績UPに繋げる」

全社員が実行力、実現力を高め『出来る社員』となり
組織として最大の力を発揮することを目指す

自責

① 商品・技術知識 ⇒ 「**立志館**」での知識研修

② 人間力の向上 ⇒ 「**人間道場**」で学び、体得

企業人、人間としての常識～五条の徳『仁義礼智信』

③ 「**売る力**」をつける ⇒ 「**C.A.P. UP1500**」

「**商社の価値**」は「**売る力**」の高い会社

大電社の完全子会社化について

【株式会社大電社の概要】 証券コード9907(ジャスダック上場)



創 業: 1947年3月

資本金: 17億31百万円

売上高: 53億96百万円(2009年3月現在)

従業員: 90名(2009年12月現在)

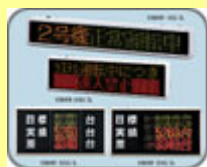
事業内容: FA機器及び電子機器用部品
(オートメパーツ)の販売

本 社: 大阪市浪速区日本橋西1-6-17

事業所: 南大阪、京滋、兵庫、横浜

【取扱製品】

- ・入出力機器
- ・配線機器
- ・表示機器
- ・制御機器
- ・システム機器



◆ 大電社の背景

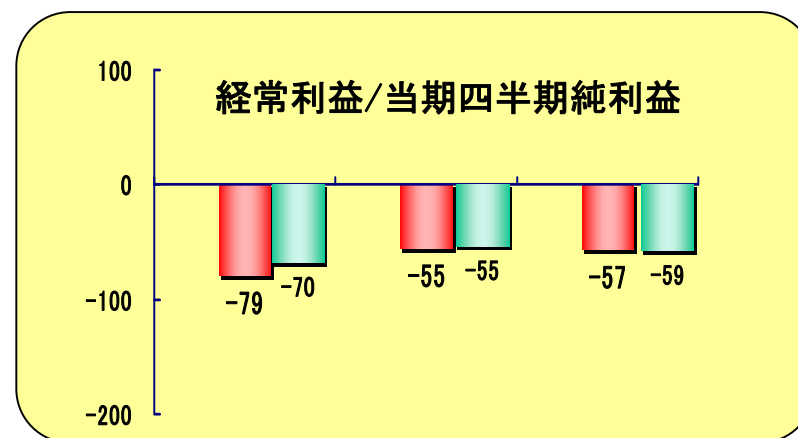
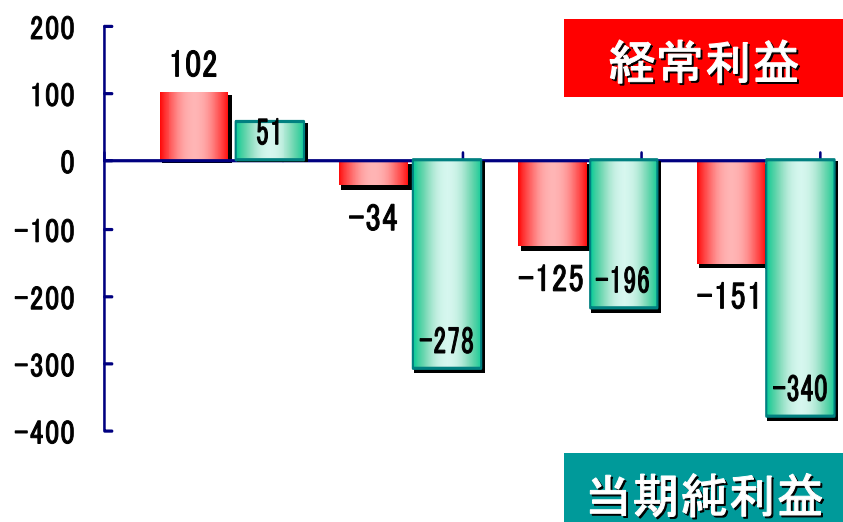
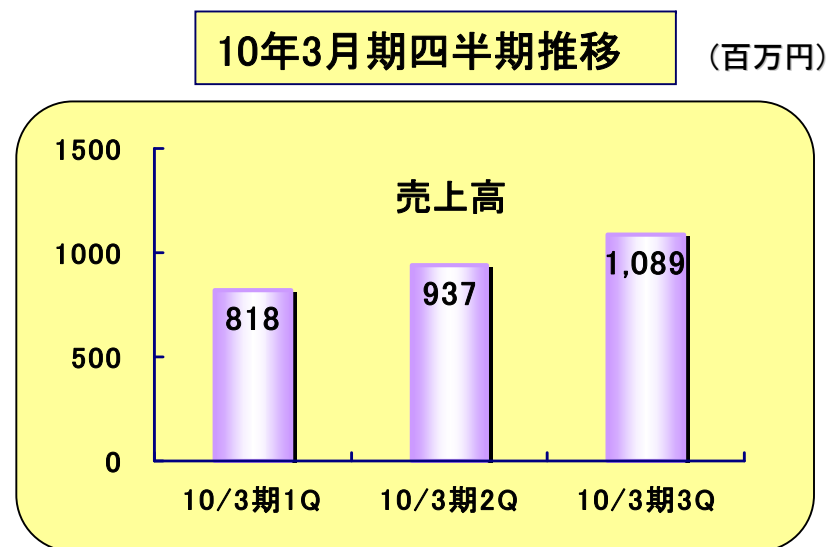
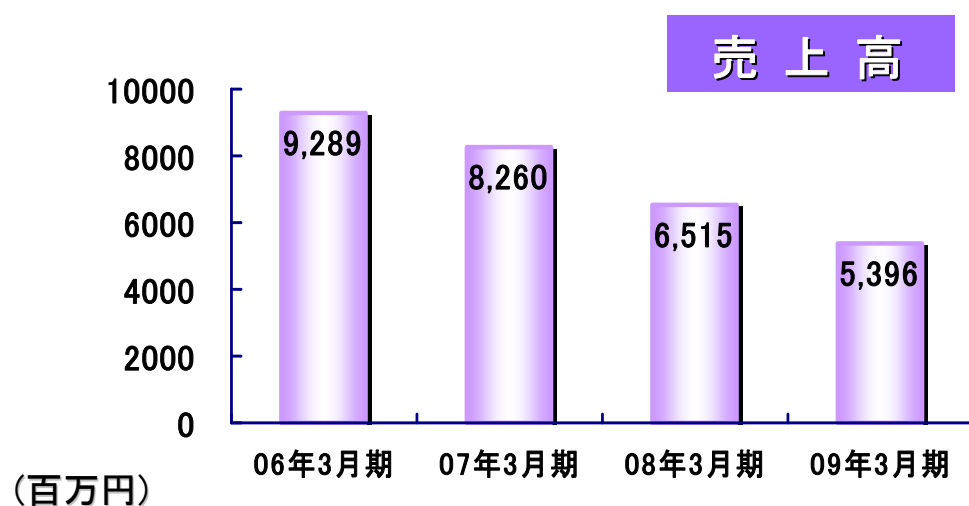
平成18年9月、当時の大口取引先であったオムロン(株)との制御機器特販店契約の解除により売上高が激減

さらに金融危機に端を発する国内外の需要減速を背景に設備投資抑制の影響を受け、制御機器・システム機器・電子部品の販売も落ち込む

単独ではなく、立花エレテックの完全子会社として今後の成長戦略を描くことが最良

大電社の完全子会社化について

◆大電社の売上高・利益の推移



◆今後のスケジュール

2月22日 臨時株主総会の招集決議及び資本金減少
の取締役会決議

3月26日 臨時株主総会開催、
減資と完全子会社化の一連の手続きを決議
(大電社株式は整理ポストへ)

4月26日 普通株式の上場廃止(予定)

4月30日 完全子会社化

◆事業方針

- ①各々の得意を活かした新規顧客開拓と両社の客先共有化
- ②各々の得意を活かした両社によるシステムシナジー拡大

立花エレテック～制御(シーケンサ)

大電社 ～ 監視・計測



生産ラインの合理化
効率化システム

- ③統一、一元化による合理化・効率化でコストダウン

IT推進ライン・管理ラインのサポート

- ④資産活用

間接部門の共同化によりスペース遊休化
⇒TC子会社、外部への賃貸により収益化

◆ 経営目標

2年で採算がとれる会社になる



3年で利益が残せる会社になる



5年で将来期待される会社になる

◆工事系子会社の合併(10年3月より)

立花ES(株) **(株)宏和工業**



(株)立花宏和システムサービス

合併の目的

◆ ソリューション営業、環境エネルギー事業（太陽光）、
施設営業を推進するための原動力となる

＊全ての工事ができる

【管工事業、電気工事業、機械器具設置工事業】

◆ 立花エレテックとの 一体経営

景況：81期（2009年度）並みもしくは若干の + α

① 損益分岐点を割らない経営

② 経費は意図的にカット

- 交際費、交通費、広告宣伝費をはじめ徹底的に経費削減を実施
- 交際費の削減 80期の20%削減
- 物流費用の削減 80期の15%削減

③ 人員 新卒は確保・自然減対応

(1) 海外での事業展開

◆ 中国市場に注力

FAの現地販売ネットワーク構築

(2) グループ経営の強化

◆ グループ連結シナジーズの推進

■ 大電社との協業

連結シナジーズの強化、経営資源を効率的に相互に活用
上場廃止(10年4月予定)などによりコスト削減を図る

■ 立花宏和システムサービスのスタート

立花エレテックグループとして質の高い工事・サービスの提供を図る
営業範囲の拡大、営業品目の増加による安定経営、管理経費削減
*CAPUP方式で推進

2015年3月期を見据えた中長期経営計画

◆ 経営目標数値（2015年3月期）

売上高 1700億円

経常利益 50億円

海外比率 20%

◆ 基本方針

- CAPUPプロジェクトの継続運用により「売る力」を強化
- 関東・中部地区における三菱電機機器ビジネスのシェアアップ
- 海外FA拠点の充実とローカル化の推進によるコスト削減

**ご清聴いただき、誠にありがとうございました。
今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。**

【お問い合わせ先】

株式会社立花エレテック 広報室 IR・株式課

Tel: (06)6539-2718 Fax: (06)6539-8820

<http://www.tachibana.co.jp/>

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。